

- ・公正・公平・社会正義
- ・希望と勇気、克己と強い意志

## 【部落差別問題についての学習】



1年生は、生き方科で部落差別問題についての学習をします。題材として取り上げるのは「狭山事件」。石川一雄さんの人生から、闘いから、生徒達とどのように学んでいくか、授業づくりが始まりました。日本社会に常識として根付いていた**差別意識**と、現実としてあった**差別の実態**が、1人の青年の人生を奪ってしまったその事実から、差別について学ぶ授業を。また、石川一雄さんが自らの人生を取り戻すため、牢獄の中でゼロから独学で学ぶ姿から、石川さんにとっての学ぶことの意味を考える授業をつくっていきました。

今年度、大正中学校文化祭で行われた部落研劇は狭山事件が題材で、石川さんが逮捕されるまでを描いたものでした。1年生の生徒達の記憶にもとても深く残っていたようで、よく覚えていました。

1時間目は部落研劇を元に様々な事実を加えながら、なぜ石川さんが逮捕されたのか、狭山事件とはいったいどのような事件なのかを深めていきました。

世間の目が、捜査の目が、石川さんに向けていったそこに、**差別意識**があったことを生徒達と確認していきました。授業者に注がれる生徒達の視線は熱を帯び、真剣そのものでした。



2時間目は、石川さんが自供した経緯について考えていきました。石川さんは弁護士が自分を守る存在だとは知りませんでした。社会の常識というものが、全く身についていなかったのです。それは小学校さえまともに行っていなかったから。行けなかったから。家が貧しく、生きることが先決だったのです。ではなぜ貧しいのか。父は部落ということで、働きたくても働けなかった。石川さんが、死刑判決を受け入れてしまうその根底に、**差別の実態**があったことを確認していきました。

「そんなこと、ありえへんやろ」があったのです。

次回は、石川さんにとっての学ぶ意味について考えていく授業を展開していきます。